

## (株)長崎ケーブルメディア

# 地元ラジオ局と連携し、情報 & 防災力強化



長崎市など2市2町をエリアに持つ(株)長崎ケーブルメディア(長崎・長崎市、佐藤修社長)のデータ放送では、地元AMラジオ局と連携した取り組みを展開。地域の住民に非常に好評だという。ラジオ連携の理由や今後の取り組みなどについて聞いてみた。

村中健二氏 営業部 部長(左)  
田原宏樹氏 技術部 部長

### 4色ボタンのショートカットも

長崎ケーブルメディアでは2013年3月1日より、第2コミュニティチャンネル「ながさきnow」を放送開始。これと同時に同チャンネルでデータ放送を提供開始した。チャンネルを「ながさきnow」に合わせると、自動的にL字のデータ放送画面が立ち上がるので、視聴者は意識せずともデータ放送にアクセスできる。「高齢者はリモコンのdボタンを押す習慣がありません。データ放送にアクセスしやすいよう意識した」と村中氏は言う。

データ放送のユーザーインターフェイスは大きなアイコンで見やすい作り。またアイコンを選択すると、そこにどのようなコンテンツがあるかをポップアップで示してくれるので、わかりやすくもある。

データ放送のコンテンツは、行政情報や防犯・防災、長崎ケーブルメディアからのお知らせなど地域の住民に必要な情報を網羅。人気のあるコンテンツについて聞くと、村中氏は「交通情報」を挙げる。長崎ケーブルメディアでは主要道路や渋滞が起こりやすい道路など長崎市内3カ所にライブカメラを設置。このカメラから送られてくる画像をデータ放送で見ることができる。またバス会社が運営している交通情報サイトとも連携し、電車やバス、航空機、フェリーなどの最新運行情報も提供している。「長崎市は自動車はもちろん、路面電車が市

民の足となっている。また地元企業が出張等で航空機を利用することも多い。それだけに交通情報に対するニーズは高い」(村中氏)。その他、長崎市医師会との提携で提供している「休日在宅当番医」情報も、子どものいる家庭などで人気が高い。これらアクセスの多いコンテンツに関してはリモコンの4色ボタンで直接ページにアクセスできるよう配慮している。

### 地元ラジオ局をデータ放送で

さらに長崎ケーブルメディアのデータ放送の特徴的な機能として、ラジオ連携を挙げることができる。同社では地元AMラジオ局のNBCラジオと提携し、「ながさきnow」でNBCラジオを聴取できるようにした。データ放送画面でリモコンの黄色ボタンを押すと、音声は通常音声からNBCラジオに切り替わる仕組みだ。「AMラジオも地域メディアの1つで、ケーブルテレビと親和性が高い。また災害時に、防災情報をラジオを通じて音声で提供できるようになります」と、村中氏はラジオ局との連携の理由を語る。一方NBCラジオとしても、長崎市はすり鉢状の地形で難視聴地域があり、その解消の意味などで長崎ケーブルメディアとの連携には意味がある。システムの的には「コミチャン送出用のHD2ch/SD2chのエンコーダーのうち、HDでコミチャンの映像・音声をエンコードし、SD1chを使ってNBCラジオの音声のみをエンコードし



データ放送トップ画面



音声はラジオ音声に切り替わる

ている。特別な技術やシステムは特に必要なかった」と田原氏は説明する。ラジオ連携実施後はNBCラジオに難視聴地域から意見や投稿が来ることもあるようで、「実際に「ながさきnow」でラジオを聞かれている方が多くいらっしゃいます」(村中氏)。

今後は、PM2.5や黄砂、花粉情報等を伝える大気情報や、地元ショッピングセンターの買い物情報の提供、防災無線との連携など、データ放送のさらなる拡充が考えられている。「お客様の要望を聞きながら、より満足度の高いものを作っていきたい」(村中氏)、「安心してお客様に使っていただける環境づくりをしていきたい」(田原氏)と、視聴者の要望を聞きながら、便利に使ってもらえるサービスを目指していく。